令和４年度　第１回湯沢市総合教育会議　議事録

日　時：令和５年２月２日（木）
午前９時～午前 10 時 55 分
場　所：本庁舎４階　会議室 41

＜開会＞
総務課長
　ただ今から、令和４年度第１回湯沢市総合教育会議を開催します。
　はじめに市長から挨拶申し上げます。

＜市長挨拶＞
市長
　おはようございます。 本日は、お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。日頃から本市の教育行政の推進にあたりましては、様々ご尽力いただいており、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。
　本日の湯沢市総合教育会議につきましては、どうしても行政は縦割りで、教育部門、他の部門となりがちですが、市長と教育委員会がしっかりと意思疎通をするという場ということで、平成 27 年から制度改正がありましてこの会議が義務付けられたという状況です。
　この会議を実施して、湯沢市の今後の行政だけでなく、教育部門のあるべき姿を共有しながら、目指すところを見定めていきたいと思っております。
　今日は、５つのテーマにつきまして、まず担当から説明していただき、皆様からご意見をいただく予定としておりますが、それ以外にも様々なお話をざっくばらんに意見交換させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

総務課長
　続きまして教育長からお願いいたします。

＜教育長挨拶＞
教育長
　おはようございます。市長には総合教育会議を招集していただきましてありがとうございます。教育委員会としては、定例の教育委員会を月一回開催しておりまして、委員の皆様に施策や具体的な事業等について説明し、ご意見をいただきながら施策事業を進めているところです。
　総合教育会議は昨年度も開催されましたが、先ほど市長から説明があったとおり、様々な教育委員会の政策についての市長のお考えを聞いたり、委員の皆様

のお考えを直接市長に述べられる場ということで、総合教育会議は非常に貴重だと思います。教育委員会だけでいろんなことを協議するのとまた違いまして、委員の皆様も期待されているところもあると思いますので、市長におきましては協議の中でどうかよろしくお願いします。

＜協議事項（各種施策の現状と今後の展望について）＞
総務課長
　それでは協議事項に入ります。これからの進行につきましては、湯沢市総合教育会議要綱第４条第１項の規定により市長にお願いします。

市長
　お手元の次第・資料に従いまして進行させていただきます。よろしくお願いします。協議事項を５つほど準備しております。

文化会館及びスポーツ施設のリニューアルについて

市長
　はじめに、「文化会館及びスポーツ施設のリニューアルについて」資料の説明をお願いします。

（生涯学習課長説明）

市長
　ありがとうございました。
　文化会館は建設してから 40 数年ということで、特に目立つのは、トイレが和式のままということとか、設備もだいぶ老朽化しているということで、20 数億円の改修を予定しております。ただ、40 数年前にあの施設を作っていただいたおかげで、様々な文化活動というものが、この湯沢に根付いているのかなと思っております。今後も延命措置をして、ずっと使い続けていきたいと思っております。
　ただ、トイレの改修や機能のところだけに 20 数億円かけるのはもったいないので、いくらか増額してエントランスも改修してほしいというお願いを生涯学習課長に重々言っていますので、そこは大いに期待しているところです。
　あと、催し物がないときでも市民の方が集まるような工夫ができないものか。言うのは簡単で、実際にそういう仕掛け作りは大変だと思いますが、そういうところにもみんなで知恵を絞ってほしいという話もさせていただきました。
　あと、スポーツ施設です。平成 17 年に４市町村が合併し、最たるものはスキー場ですが、各市町村に１つずつあったものを稲川スキー場 1 つに集約して、ヒュッテの新築や、上の方の急なところの斜面を滑れるように新たなコースを

新設するということをやっております。
　それは、４つのスキー場を管理運営しているとなかなかできなかったことを１つにしたからこそ、集中的に投資ができるのかなと思っています。
　そうした中で、残すものともうお金をかけられないものをしっかりメリハリをつけ、さらに今までは、壊れたから直すということを繰り返していましたが、そうではなくて、時が経っているから必ずこう改修すべきという保全計画を立てて計画的に整備を進める予定としております。
　これにつきまして、皆様からご意見をいただければと思います。テーマ１つ毎にお話いただきたいと思っております。

簗瀬委員
　財源が限られていると思いますので、無理のないお金の使い方をしてください。そして、いいものはお金があれば何でもできるのですが、湯沢市民が、使ってよかったな、ここが良くなったな、行ってみたいな、ここは他のまちにはないところだなといった、使いやすくて、自慢に思える施設がすごく嬉しいと思います。
　新聞で見ましたが、ある自治体で小さな映画館をやっていて、結構、市民に喜ばれていて維持できているというところもありました。同じことを求めているわけではないですが、湯沢市民が文化会館へ行くと、いいな、楽しめるなというように、何か心の支えになるようなあたたかい施設になってくれたらいいなと思っています。
　あとは、スポーツ施設の方も、健康長寿の県のデータを分析して、なぜ長寿なのか見てみると、健康寿命が長く、そして生涯にわたって運動する習慣が身についている人たちが多いとのことでした。私、横手市の「えがおの丘」によく行きますが、80 代や 90 代の人たちが生き生きしています。湯沢市でも、80 代や 90 代になっても運動できる環境にあると思います。これからも継続して行ってみたくなるような施設を続けてほしいと思っています。今、市長の話を聞いて本当にいいなと思いました。

後藤委員
　湯沢文化会館についてです。私が湯沢に来た 20 代のとき、凄い施設が湯沢にあるなと思いました。それ以後、いろんな場面で文化会館に行く機会があって、市内でも誇れる施設だなと思いました。文化会館は、非常に立地条件が良く、国道から近く、高速道路を降りてもすぐ、何より駐車場がたくさんある。そういう意味では、他には無い条件が揃っていると思います。現在、湯沢文化会館の管理運営は市でやっていますが、人事異動があったりして職員が変わるので、管理運営や事業計画などで課題が生じているために、管理運営を民間にということになるのだろうなと思います。

そのような中、市民アンケートの結果で、施設を利用しない理由として、利用する機会がないということが述べられていますし、利用する必要がないという回答もありました。若い人たちがなかなか文化会館に足を運んでもらえないという課題もあるわけで、まず、市民が気軽に参加できる市民参加型の事業とか、芸術文化に触れる機会を構築していただいて、誰でも気軽に足を運べるような取組を期待したいと思います。

また、文化会館で演奏することは、子どもたちにとってとても夢のある話で、文化会館に行って演奏したい、演奏できた、という夢と希望を与えてくれる場所でもあるので、今後とも、文化活動の拠点として取り組んでもらえたらありがたいなと思います。

音楽のまちゆざわ月イチコンサートを市役所のロビーでやっていますが、今度は文化会館を拠点にしながら、いろんな活動を広げてもらえたら大変ありがたいと思います。

久米委員

湯沢文化会館それから各スポーツ施設は、湯沢市民の生涯学習・生涯スポーツにとりまして必要不可欠であると思います。市民が安心安全に使用できるように計画を進めていただきたくお願い申し上げます。

後藤委員からもお話ありましたが、昨年６月の湯沢文化会館機能向上事業計画に係るアンケート結果を私も拝見しました。このアンケート結果とそこから導かれた課題の整理というところで、やはり利用率・稼働率というところが課題になると記載がありました。特に諸室が年間 20%に満たないということで、印象としてはもったいないなという感じがします。リニューアル後は、指定事業や実施事業、計画や展望がいろいろとあるようですが、諸室も利用料金・利用体系が変わり利用しやすいようになるようですので、こちらの方から「こんな使い方ができますよ」「こんな使い方をしたらこのぐらいの費用でできますよ」とこちらから推していくのも、稼働率を上げる意味では必要なのかなと考えています。いずれ、こういった施設は、湯沢市民にとりまして、有効活用が一層増進できますように事業展開を期待しております。

佐藤委員

文化会館のリニューアルは、素晴らしいと思います。トイレの洋式化やバリアフリー化、あと、エントランスを明るくするというのもいいですし、机や椅子とかを置いて Wi-Fi をフリーにして、来訪する人たちのきっかけ作り等もしていただけたらいいなと思います。

この間、秋田市のミルハスに行ってきました。ゆったりしたデザインで、伝統工芸を正面に配置したりしていい文化施設だなと思って見てきましたが、そういったものを市として取り入れてもいいのかなと考えました。あとは、利用する

人たち全てに優しいユニバーサルデザイン、誰もが公平に使えるとか、使うときの自由度が高いとか、使用方法が単純でわかりやすいとか、インターネットで予約方法を検索して予約できるようできればいいのかなと思いました。

最近、市の Facebook で見ましたけれども、音楽のまちゆざわの月イチコンサートが、２月５日に湯沢文化会館大ホールで、市内の小中学生や高校生によるバレンタインコンサートとして開かれるようです。文化会館というと観る施設という感じがしますけれども、子どもの頃からその舞台に立って、演奏したり歌ったりという体験ができることは、未来を担う子どもたちにとってとても貴重な体験だと思うので、そういったことは引き続き計画していただけたら、いいなと思います。

湯沢文化会館、雄勝文化会館、文化交流センターが指定管理者制度を採用すると催し物の重複がなくなる等、より効果的な取組が行えるのでいいのではないかと感じています。

スポーツ施設に関しては、たくさんの人が集まって活動する場なので、適宜周知して、市民の皆さんが生涯にわたって安全で快適に使えるように、スポーツの場の提供をこれからもお願いしたいなと思いますし、そのためには、利用者数の把握や市民アンケート等を行って、時代のニーズに沿った改修と整備を行っていただけたらいいなと思います。

教育長

湯沢文化会館については、音楽関係では音響効果が最高で湯沢市内では憧れの総合的な会館というシンボル的な建物だと思います。

昨日、県内の 13 市の教育長と関係課長の会議がありまして、その中で今日の協議事項にもなっているＩＣＴ関係と部活の地域移行について情報交換を行ってきましたが、場所がミルハスでした。昨日初めてミルハスに入りましたが、やはり素晴らしかったです。会議は、４階の小会議室でしたけれども、かなりスペースが広く、あれだけの人数の会場なので、廊下等もかなり広くなっていました。ちょうど、秋田市の教育長が担当だったので、「湯沢市にも素晴らしい音響の文化会館があります。」という話をしてきました。

他に驚いたのは駐車場です。アーケードのような形で雨雪に濡れず、建物と繋がっており非常にいいなと思いました。

意見のあったように、文化会館をイベントがある時だけ人が集まるのではなくて、市役所でいうロビーのような感じで日常的に人が立ち寄れる場になってもらえればいいなと思います。そのためには、エントランス関係のところに工夫が必要かなと思いました。まず、子どもたちそして市民もそうですけれども、憧れの演奏の場、発表の場となってくれればいいなと願っているところです。

市長
　ありがとうございます。
　ミルハスは、私も前に行きましたが、川連漆器を使って樺細工と曲げわっぱとコラボしたような形で、様々ディスプレイしてくれてありがたいなと思っています。
　実際に規模は全然かなわないですけども、何とかこの湯沢文化会館というものを湯沢の宝として今後も持ち続けていければと思っていますし、そのためには、先ほどお話ありましたように、指定管理をするという予定で進んでおります。
　我々職員がいろいろな企画をして運営するというのは、そんな言い訳は通用しないと思いますけども、どうしても素人なので、それよりもプロのプロモーションをやっている方々にしっかりと計画していただいて、事業を組んでいただく。中には、湯沢の子どもたちも参加するようなもの、一生懸命頑張ってくれています音楽のまちゆざわに携わる方々、そういうものも合わせながら運営していけたらいいなと思っています。
　また、利用料金について、条例では高く設定されていますが、湯沢の学校の子ども達は無料だとか、湯沢の団体の方々は半額だとか、そういうところをしっかりやって湯沢市民の方々にどんどん使っていただくとともに、プロの方を呼んだ場合、どんなに高い料金を払っても見る人がいると思うので、そういうメリハリつけてやるべきなのかなと思っています。

今後の学校統合について

市長
　次に、２つ目、資料２になります。「今後の学校統合について」事務局から説明をお願いします。

（教育総務課長説明）

市長
　ありがとうございました。
　学校統合についてということで、以前からずっと進めておりまして、将来的に湯沢市に学校が一つずつあればいいんじゃないかというようなレベルまでいつかは行くのかなという感じもしないでもないです。
　実際に去年生まれた子どもは百数十人です。20 歳を祝う会の 20 歳頃の子どもたちは四百数十人の対象者がおりました。我々の年代だと千数百人の同級生がいた時代ですので、本当に少子化というのが加速していると感じています。その百数十人の子どもたちが親になる年代になったら、その子どもって何人になるだろうというところを本当に危惧しているところです。
　小学校も中学校もどうしても適正な規模というものがありまして、子どもた

ちが切磋琢磨できるような人数、部活動の問題もありますので、どうしてもここは避けて通れない話なのかなと思っています。
　ただ、行政の方で「合併した方がいい」という話でもないのかなと。地元の人たちとしっかりと共有して進めていくということが一番なのかなと思っています。
　また、委員の皆様からご意見をお願いします。同じように簗瀬委員からお願いします。

簗瀬委員
　統合することで、メリットとデメリットが絶対ありますが、メリットの方に力を入れていけば、デメリットがだんだん見えなくなってくると思います。例えば、地域を背負った親や子どもたちが一つの統合校に集まって堂々と地域の特色を出す。そして、子どもたちの数がある程度出てくると、考え方の層も広くなり、いろんなことにも挑戦できる。
　変な例えになりますが、小さい病院に入るよりも総合病院で治療してもらえばよくなるような感じで、小さいところよりも大きな組織になると、いろんな先生たちがいて、それぞれの子どもたちの良いところを見つけて伸ばしていただける。あるいは、今までの小さい枠の中から出ると、良いところを見つけてくれる仲間も出てくる。小さい中にいれば安心だけれども、大きくなることによってチャレンジのようなものも出てきて、さらに広がりが出てくる。
　「湯沢市の子どもたち」という意識で、山田とか皆瀬とかの子どもたちという枠を超えて、もっと広く「湯沢市の子どもたち」を良くするということで、地域の人たちの思いも期待も持ってもらって、子どもたちが秋田県や日本や世界に羽ばたけるような人材になるためには、今の方向は、決してマイナスではないと信じています。

後藤委員
　山田中学校は、これまで小規模校ながら、全校生徒の取組で、先生方や地域の方々の協力を得て、素晴らしいことにチャレンジして、大きな成果を残し活躍してきた子どもたちです。
　建築から 44 年、文化会館と同じ昭和 54 年の建築ですので、校舎の改築の時期にあるという話も聞いていますし、生徒の減少と改築の両方を合わせて考えていく時期だと思います。
　ＰＴＡや地域等で丁寧に説明し、意見を聞いたりして話し合いを進めていますが、まだ結論には至っていないと聞いています。
　私の個人的な意見ですけれども、地域に学校を残したいという地域住民や保護者の方がいらっしゃるかもしれませんが、第一に考えるべきは、子どもの将来像というか、子どもたちが育っていく姿に焦点をあてて考えていくべきと思っ

ています。子どもたちは色んな可能性を秘めています。どんなきっかけでその子どもの持つ能力が開花するか、それは誰にもわからないわけです。あらゆる場面での体験、多くの人と交流したりして視野を広げて、そういうところから学ぶことが多々あるではないかと考えます。

特に思春期において、同級生や異学年の子どもたちから受ける影響っていうのは、大きいものがあるのではないかと思います。他の人の活動を見たり聞いたり、そして意見を述べたりしながら物事を吸収して成長していくのではないかなと思いますので、広く多くの人と触れ合う環境で学ぶことができるのであれば、統合も考えていいのではないかと思います。

今年度統合した稲川小学校のことです。最近嬉しいニュースだなと思ったのは、アンサンブルコンテスト県大会で金賞を受賞し、２月 12 日、山形市で行われる東北大会に参加できるというニュースを見まして、これは小さな学校から集まってやりたいなと思ってみんなで頑張った結果の表れなんじゃないかなと思い、これは嬉しいことだなと思いました。こういうことが全校の子どもたちの励みになるし、先生方の頑張りにもつながっていくのではないかなと思いました。

皆瀬小学校と皆瀬中学校については、資料２にあるように児童生徒の好ましい教育環境のあり方について、意見交換を継続していったらいいのではないかなと思います。

久米委員

私も湯沢市の学校に関与する１保護者です。今年度統合した小学校へ通っておりますけれども、統合後の変化としましては「学校のことをよく話すようになった」「友達のことをよく話すようになった」「明るくなった」、そんな印象です。おそらく、一緒に勉強する仲間がいっぱいいますので、その中に気の合う子や同じ価値観の子、そういった友達を見つけられたこと、あるいは、今までには無かった考えの発表や意見を聞くとか、そういったいろんな考えに触れたことで視野が広がって、精神的に楽になったのではないかと見ております。

私個人の感想ですが、大変良い学習環境であると思っています。統合の話になると賛否両論は当然です。賛成の方のご意見もありますし、反対する方のご意見もよく分かります。私も統合前は、全校 47 名の学校から 248 名になるということで、およそ５倍の規模、その状況の変化、あるいは地域の防災だとか交流の場だとか、そういった側面もあります。私は地域で仕事をしていますので、若者の定住化と逆行するのではないか、ひいては地域の衰退になるのではないかということも心配しておりましたが、後藤委員の話と重複してしまいますけれども、やはり子どもの学習環境を第一に考えるべきではないかと思います。もちろん地域のことも大事ですし、そういったことをいろいろ意見交換して進めているわけですが、そのゴールは学習環境というところで忘れないように、学校の建物

の安全とか、先生方やスクールカウンセラーの数とか、様々なことを考慮しながら意見交換して進めていただければと思います。

佐藤委員

委員の皆さんのご意見のとおり、たくさんの児童生徒の中で学びあった方が、子どもにとっては、いろんな考え方を吸収したり、学びあったりということができるのでいいだろうなという気持ちがあります。

山田中学校に関して言うと、外から見ていても素晴らしい学校だと思います。学習環境プラス学校の長寿命化計画で修築したとしても、以降10年間ぐらいしか学校が使えないというところでどうするかも含めて、今後のあり方について協議しながら方向性を決めていただいて、それに沿った統合の在り方を検討していただけたらいいのではないかと思います。

皆瀬地区については、どこの学校もそうですが、アンケートをするというと、「じゃあ統合に進むのか」ということで、「いつ統合するのか」という感じになってしまって、地域の方々が自分の事として、統合したら10年後にはどうなるのかということの意見を聞きたいなと思っています。

去年もこの会議で話したかと思いますけれども、小学校に関しては、どこに通うにしても、夏場で一時間、冬場はそれ以上かかります。近所にも、もうすぐ小学校に入学する子どもたちが結構いるので、この子どもたちは、ちゃんとバスに乗って行けるんだろうかとか考えたりすると「大丈夫なのかな」と思ったりします。

コロナ禍になってからＩＣＴ関係がすごく充実してきて、授業でも画面を通して他の学校とのやり取りができつつある状況ですので、そういう部分を使って学び合う形の検証をしてみるのもいいのかなと個人的に思っています。「こんなやり方もありますよ」ということを、地域の皆さんから意見が出てくればすごく良いです。

やはり地域から子どもがどんどん少なくなってしまうと、地域自身の存続も厳しくなってくるのではないかと思います。統合ありきで話を進めていくと、地域が無くなってしまうといったことにも起因してしまうのではないかなという心配も正直あります。ただ、それらも含めて、まず地域の人たちの意見が出てくればいいかなと思うとともに、あとは市の方針で決めていただけたらいいのかなと思うところです。

教育長

前の再編計画を大事に持っていますが、その時に教育環境の整備ということの付帯意見で、安全安心な通学方法及び校舎の整備、地域との連携、統廃合に伴い地域とのつながりが希薄にならないようにとあります。その対策として、現在、それぞれのブロックに地域学校協働本部を置いています。それがまず一つの対

策です。それから、小中学校統合の推進にあたっては、保護者や地域住民に対して説明責任を十分に果たしながら、理解と協力を得て取り組まれるようお願いするという付帯事項もありました。まずは、これに則って統廃合関係や学校再編を進めているところです。

先ほど佐藤委員から、統合の場合、10 年後どうなるのかというお話がありました。平成 23 年に統合した学校があり、10 年経ちましたが現在どうなのか。それから平成 27 年にも統合がありました。10 年といえばもう２年後です。それぞれの地域の学校の統合ですので、地域性が出てくると思います。

それから、私の手元に令和３年版の各地区の出生数があります。もう軒並み減っています。例えば、令和３年であれば、雄勝地域の出生数は、院内・横堀・秋ノ宮・小野、合わせて７人で、皆瀬は２人です。令和３年生まれの子どもたちが７歳で入学するので７年後は学校に入ってきます。

やはり先を考えていかなければ、「さあ、来年どうする」ではもう間に合わないわけです。そのためにも、「今からどうする」、「この後どうする」となると、先ほど市長もおっしゃられたように、現在６小６中ありますが、市全体を考えた場合の学校はどういう計画で進めるかということになります。

それから、いろんな本を読んでいますと「学校の役割ってなんだ」「学校じゃないとできないことはなんだ」と考えます。学校じゃないとできないことがあるから学校の存続という話になる。だからそういう意味で、教育行政だけでなくて、先生方はどう考えているのかと思います。学校が無くなれば仕事が無くなるということになる。学校じゃないとできないことって何なのか、だから学校を残すんだという。どうなるのか、ああなるのか、という心配事をいっぱい挙げると物事が進まない。学校じゃないとできないことは何か。そこは、やはり我々もそうですが学校現場でも、それから、地域の方、保護者の方も改めて考えていかなければならないのではないかと思います。地域の部活動移行ではないですが、部活動は学校でなくてもできるだろうというように考え方が変わってきています。学校そのものの存続、学校の見方と言いますか、よく昔言われたのが学力をどう捉えるかというのと同じで、学校でなくてもできることがあるだろうと。あるいは逆に地域でなければできないこともあるだろうという分け方。そういう視点で考えていくこともできるのかなと思います。

学校でなければできないことは、やはり多くの子どもたちの関わりの中で切磋琢磨していくとか、鍛えられていく部分だと思います。確かにオンラインはありますが、人間関係や気持ちを持っていくためには、直接なのではないかなと思います。

いろいろあると思いますが、機械化に頼っていくことも必要だとは思いますが、学校でなければできないことは何なのかということで、学校が無くても全部できるというのであれば、学校なんて要らなくなってしまいます。考えると頭が痛いです。

市長
　子どもの生まれる数を聞くと毎回ショックを受けます。ただ、コロナ禍の３年間で一番進んだのが、リモートということなのかなと思います。距離を縮め、距離を感じないというメタバース・仮想空間などものもありますので、それがフルではないにしろ、ハイブリット形式で、これを教育現場にも。例えば通学に毎日１時間かけるのを、通学を半分にして半分はオンラインでやれるんじゃないかとか、今後研究していかなければならないのかなと思っていますので、よろしくお願いします。

ＩＣＴ教育の推進について

市長
　次は、そのＩＣＴの関係、資料３です。「ＩＣＴ教育の推進について」説明をお願いいたします。

（学校教育課長説明）

市長
　ありがとうございました。
　市でも、ＤＸ、デジタルトランスフォーメーションと言っていますが、とにかくＩＣＴを駆使して、新たなサービスを提供しましょうということで取り組んでおります。
　例えば、生涯学習センターや地区センターの会議室を利用する時に、今まではお金を持って、何日の何時に貸してくださいという形で予約しに行っていましたが、スマホひとつで予約から決済までできるようなシステムを導入しようと取り組んでいます。
　窓口にもキャッシュレス、「ピッ」てやるやつを去年導入したりとか、あとはマイナンバーカードを使うと、住民票などはいつでもコンビニで交付できますし、本庁舎１階でも 22 時まで交付できるようなことを進めております。
　最終的には、市役所に来なくても、スマホでやり取りすれば何でも手続きできるというところに行かなければいけないのかなと思っています。
　そういう時代を迎えるためには、やはり子どもたちに小さい時からタブレットやスマホに慣れ親しんでもらうのが一番なのかなと思います。
　我々大人が思うよりも子どもたちにタブレットを預けて自由に使わせると、すぐ馴染んで使ってくれるのかなと思っていますので、是非これも進めたいなと考えています。これにつきましても、ご意見をお願いします。

簗瀬委員
　湯沢市は、秋田県のＩＣＴの先進地ですので、子どもたちが少子化しても、世界に羽ばたけるようなＩＣＴを使った人材が育つと期待しています。
　ムーミンで知られる北欧のフィンランドは、学力がトップクラスです。ここは、ソビエト連邦に何回も侵略されても独立を保った国です。豪雪地で産業が木材業だけ。それで、どうしたら国は生き延びられるかというので、ＩＣＴに力を入れて、子どもたちに小さいときから教育させて、授業料を無料でやっています。携帯電話の原型というのは、実はフィンランドで生まれています。教育に力を入れれば生き延びられるものだと思いました。今は、幸福度で世界トップクラスです。湯沢市も何かフィンランドに似ている。東成瀬村も学力日本一。皆、共通点があります。それは小規模だということです。戦争になれば、資源があるから大きい国が勝ちます。でも戦争がないときは、小規模の地域は、市町村みたいにフットワークが利きます。動けます。１つにまとまることができます。これが、これからの秋田県を始め、小さくなってくる自治体が生き延びる１つの方法になるのではないかということを大学から習ったことがあり、私の意見ではありません。
　50 年前のことですが、由利郡岩城町は、インフラが全くゼロ、水道もない、飲み水もない、下水道もない、働く場所もない、すごく小さい町でした。そこで町長が、小さなまちから大きな人材を育てようということで、教育にかなり力を入れました。そうしたら岩城町はどんどん発展しました。市町村合併の時には、秋田市も欲しい、本荘市も欲しいという町でした。
　これからＩＣＴで絶対発展しますので、市長にはどうかよろしくお願いします。

後藤委員
　ギガスクール構想の時に、市でとても整備に奔走していただいたことを思い出していました。先生方も負担を感じながらも、研修時間を確保したりしながら、まずやってみましょう、使ってみましょうっていうところからスタートしたわけです。
　学校訪問した際に見せていただきましたけれども、今は、子どもたちのスキルもアップしているなと思いました。タイピングも上手だなと見ていましたし、先生方も子ども達に教えていますけれども、自分も学ばなければいけない、成長しなければいけないというところで、ある意味で良い教育環境になってきたなというところを感じました。
　小学校に支援員を派遣していただいたことも大きな助けになっていると思いますので、引き続きお願いしたいと思います。
　中学校においては、教育委員会に相談すれば分かる方がいるということですし、技術の先生もいますので、校内でなんとかしながら向上しているのではない

かと思います。
　人材を派遣していただいているおかげで、タブレット端末がいつでも使える道具になるように、また、タブレットの持ち帰りについて、小学校低学年はどうかと思いますが、やがては、全員が持ち帰って、家でも使えるようになってもらえればいいなと思います。
　私はアナログの人間ですが、頑張ってみようと思います。

久米委員
　教育のＩＣＴ化に保護者が期待することとしては、情報処理能力の向上や個人の習熟度別によって最適な学習ができるなど、メリットがたくさんあると思います。
　学校とのやりとりもスムーズになるようですので、そういった点では期待していますが、心配な点もたくさんあるわけです。健康への影響、長時間使用による視力の低下、ストレートネックの姿勢の問題、最近は脳への影響、スマホの話ですけれどもスマホ認知症、そこからくるＩＴ断食といった言葉もあるようです。あとは、物理的に扱い方が乱暴な生徒もいるかも知れません。
　そういう面で、情報処理端末を使っていく上では、マナーやモラルというのも合わせて指導していかなければならない部分ではないかなと思います。スマホもちょっと絡めて話しましたけども、情報処理端末といった意味では一緒だと思います。これから子どもたちはこういったものと日常的に長く付き合っていくわけですから、なおさらモラルやマナー、必要であればルールを合わせて指導していくべきではないかと思います。もちろん学校でもそういったことを教えて、保護者も教えなければならない。でも保護者もうっかりマナー違反があるかもしれませんので、地域、市、世の中全体で啓蒙していくことも大事ではないかと思います。

佐藤委員
　ＩＣＴ教育の推進ということで、私も小中学校の学校訪問や授業参観で子どもたちの授業を何度か見ています。ＩＣＴ活用の度合いが増しているなというのも垣間見た２、３年でした。
　確か、国語の授業だったと思いますが、同じ文章を読んでいても、それぞれの視点や感想が違っていて、それを先生がピックアップをして、児童が書いた文章が大型スクリーンに映し出され、全員がいろんな人の意見を読み取ることができたりしているのを見て「子どもたちは、こういうふうにして、瞬時に人の意見の違いをＩＣＴを活用して感じにとれる時代になったんだな」ということを感じたので、大型スクリーンなどの設備をこれからも整備して進めていただきたいなと思いました。
　あとは、４年生の社会の授業でしたけれども、まなぐ凧、角館の樺細工、大曲

の花火、犬っこまつり等といった伝統文化・伝統工芸を調べて、ロイロノートというノートにまとめて、その後だと思いますけれども、それぞれが調べたものを画面に映すのか、プリントアウトするのかまでは見て取れませんでしたが、そういったものをそれぞれがインターネットで調べて発表し合う教育環境ってすごいなと思いながら学校訪問させていただきました。

今後の展望として、タブレット端末がいつでも使える道具となるよう、持ち帰りの練習をしていくことを目標としているようですけれども、家庭でも気をつけて見ていますが、学校の方でもチラシを入れたり、時には関係する部署の人を呼んでいろんな注意事項を教えていただいたりということもありました。インターネットやパソコンというのは、とても便利なものですけれども、そうでない側面も持ち合わせているので、そういう部分も小さい頃から、時代によって危ない側面が変わってくると思うので、家庭でも学びつつ、学校でも学びつつ、子どもたちに教えていただけたらと思います。パソコンを家に持ち帰る学習をするとなると、保証であったりとか、ウイルスであったりというところも気になる部分で、そのパソコンを学校にまた持ってきて授業を進める時に、スムーズに授業が始められないという事態にならないよう、整備と言いますか、ウイルスチェックといったことにも便宜を図っていただけたらと思います。

教育長

先にお話しした昨日の会議で、各市町村の課題を見ますと、今、各委員さんがおっしゃられたようなことが挙がっています。ただ、なんでもＮＧではなく、まず、どんどん使わせてみないといけないのではないかという意見が多かったです。「こういうことしちゃだめだよ」「ここだけは絶対だめだよ」ではなくて、まずどんどん使わせる。それから質に入ったらどうだろうという意見もありました。

それから、通信環境です。家庭の環境ができていないところに、市ではモバイルルーターの貸出はありますが、契約あるいは通話料金はどうするか、家に持ち帰った時の故障や破損のときにどうするかなど。今は試験的に教育委員会でやっていますが、この先どうするのか。いずれは、個人持ちになり、教材・教具と同じように市で指定して、入学時に個人でタブレット端末を購入してもらうようになってくると思います。そして肝心なところは、市として統一して契約して進めていく。学習の道具が全部そうなってくるとすれば、それを全て教育委員会で全部保障するというのはあり得ないことだと思います。

昨日の話や今日いただいたいろいろなご意見を参考にして、いろいろと整えていきたいと思います。

市長

教育現場のＩＣＴを進めることは当然やらなければならないことだと思いま

すが、今お話いただいた先生方の負担という点が一つと、あとはモラルなどをしっかりと家庭と学校の両方で教育しなければならない点が多いと思います。特に情報というのは様々で、嘘の情報や悪意のある情報もたくさんあります。それらをきちんと見極めて、正しい情報を入手する術を何とかして学ばせていくところも合わせて進めたいと思います。

部活動の地域移行について

市長

　それでは、次に「部活動の地域移行について」。資料４について説明をお願いします。

（学校教育課長説明）

市長

　ありがとうございます。

　この問題は、人材の確保、それから指導してくださる方の待遇、場所の確保、場所に行く移動手段、費用負担など、様々あります。

　全国で同じような問題を抱えているものと思いますが、どこかでやったことをそのまま湯沢でも真似するというわけにもいかないと思います。いろいろな競技の事情をしっかり勘案して、湯沢のモデルをしっかり構築して行かないとなかなかできませんので、待ったなしで進めていかなければならない課題だと思っています。

　また、委員の皆様からご意見をお願いします。

簗瀬委員

　秋ノ宮で生まれて横綱になった照国。優勝２回、双葉山に勝ったたった一人の横綱です。その照国の部屋に 50 人弟子たちがいました。照国と女将さんは、何を一番考えていたかというと「弟子と思うな、子どもだと思え」と。強くても弱くても親がいる。その親の気持ちになって照国夫婦は弟子たちの面倒をみる。優しすぎてあまり強くはできませんでした。でも今、ほとんどの弟子たちが、照国のことを言えば「あんな親父はいない」と泣きます。

　私は、外部指導者の方には、強くなってほしいという願いと同時に、「めんこい子どもだから、大事にして、励まして、とくに弱い子や元気のない子を励まして、その子なりに強くさせてやってね」と、いつも教育部の課長さんにお願いしています。湯沢市だから情の厚いことができると思いますので、何とか励ましてほしい。ここでまたお願いをします。

後藤委員

　これまで、学校の部活は、学校の先生方の負担の上に成り立ってきたわけです。少子化そして教員の働き方改革に対応することを目的に、スポーツ庁と文化庁が公立中学校の休日の部活動を地域団体や民間事業者に委ねる地域移行ということを公表したわけです。

　小学校のスポーツ少年団が、平成８年頃に学校団から地域に移行するときのことを思い出しました。平成 13 年度の学校週２日制を見据えて、学校団から地域の方にスポーツ少年団を移そうという動きがありました。現在は、保護者が学校に行って教えています。先生方は事務的なことをやるような形で協力しています。

　長年かかって学校団を切り離してスポーツ少年団に移行してきたわけです。今、急に「地域移行しろ」と言われても、受け皿となる湯沢市内に地域でやっているところというのは、サッカーと空手道ぐらいではないでしょうか。あと、地域で動いているというのは無いと思います。

　先日、体協の祝賀会がありました。スキーのジャンプの子は、花輪のクラブに入っています。前々からいろんな子どもたちが、花輪のスポーツ少年団に入っています。テレビでも放映されましたけれども、バスケットボールの２人の男の子どもたちは、能代のバスケットアカデミーに入っています。土日の送り迎えは保護者ということで、保護者の負担が大きいなと感じています。身近なところであればいいですけれども、今、急に言われてもやはり厳しいものがあると考えます。

　昨年度は、各中学校に部活の外部指導者を８人派遣していただいています。まずは、その８人の部活動指導員の配置を更に充実させるという取組の体制で行くしかないのかなと思います。そして学校と地域と団体の指導者を橋渡しする役をコーディネーターとして配置することを考えているようですので、その受け皿となる各スポーツ団体と教育委員会と学校との連絡調整をしていただいて、体制整備をしていく中でいろんな問題が出てくると思うので、それらを順次整理しながら少しずつ進めていくのがいいのかなと思います。一気にはできない問題かと思いますので、どこに置くかはわかりませんけれども、どうかコーディネーターを配置していただくようお願いしたいと思います。

　また、先ほど市長が言われたように、指導者は誰でもいいわけではないので、よく新聞には指導者の質の確保とか書いていますけども、それを誰が評価するかという問題もあります。それから各競技団体によっては、指導者がたくさんいる団体と、本当に手薄なところもあるわけで、そういうところも含めてコーディネーターを中心に考えてもらいたいと思います。

久米委員

　先月１月 30 日に県内の新聞に、2022 年度のスポーツ界の暴力問題という記事がありました。「暴力は減っているけれども暴言が増えている。暴力は減少傾向

にあるけれども決してなくなったわけではない」という記事でした。そういうことが未だに行われている現実もあるんだなと思って見ておりました。
　指導者の方も、各自治体、体育協会、中体連などで実施している研修を受けないと出場できない大会もあるようです。やはり、大会、コンテストというと勝ち負けがあるものですから、勝ち負けに執着すると行き過ぎた指導にもつながるのかなと思います。まして進路や就職にも関わってくる部分もあると思います。あくまでもこれは学校教育の一環だというところで、勝つことを否定するわけではなくて、やはり根底には学校教育の一環だということを指導者や地域の方のほか、保護者の方にもご理解を得ることが大事だと思います。生徒、それから保護者が過度な負担にならないように部活動を頑張っていただければと考えます。

佐藤委員
　部活動の地域移行について、まず、中学校の部活動の運営の仕組みというのは、学校の先生が中学校の部活を教えるということがすごく根付いている部分があったと思うので、それを地域移行するという理念に結びつけていくことは、やはり関係者や関係団体、あとは人や組織の理解とそれを牽引する行政の柔軟なリーダーシップというものが必要になってくるだろうと思います。
　どの地域でも、受け皿となるスポーツ団体や文化団体、運営側の地域スポーツ団体と中学校の充分な連携ということがすごく必要になってくると思いますし、先生ではない指導者の人数を確保する必要があります。その方々は働いている世代で、その部分をどうするかという問題があります。学校の先生であっても、スポーツや音楽なりで、自分も経験があり、指導経験もある方々は、指導を今後も続けていただきたいという要望が保護者から出てくるものと思います。先ほど後藤委員がおっしゃっていましたけれども、そこの調整という部分をどうするのかということを一つ一つ解決していく、方向性を見出していく、微調整していく、そういう感じで進めて、湯沢モデルというもの作っていくのが一番いいのかなと思いながら、私もこの件に関しては、どうしたらいいんだろうなと思っています。
　今後の展望に書いてあるとおり、市の実情に合わせた環境整備に向けて慎重に話し合いを重ねて、検討していくのが一番いいのかなと思っているところです。

教育長
　仙北市は、観光文化スポーツ部というものがあるようです。その観光文化スポーツ部には、スポーツ振興課と文化創造課があって、そこで合同の連絡協議会を行う形を採っているようです。大仙市では、成果と課題というところで、成果の部分には、市長部局との連携による市全体の取組になることの確認をしたとい

うことです。それだけ大がかりなことであり、予算がかなり伴います。国で全てやってくれればいいと思いますが、社会教育、生涯スポーツ、それにつながっていくだけに、そういう意味ではすごく難儀だと思います。
　今回の総合教育会議で、部活動と中学校に限定していないですけども、部活動の地域移行を取り上げていただいてよかったと思います。

市長
　地域移行の背景には、教育現場の働き方改革というものが一つでしょうし、もう一つは子どもたちの可能性ですね。やりたい種目、吹奏楽も含めてですけど、やりたいことにチャレンジできる地域の体制を作るということ。この二つの大きな背景があるのかなと思いますので、今までやってきたことを変えるということは相当な力技が必要なのかなと思いますけれども、一つ一つの課題を整理して、それをクリアしながら進めなければならないのかなと思いますので、何とかよろしくお願いします。

今後の文化財利活用について

市長
　それでは次で最後です。「今後の文化財利活用について」説明をお願いします。

（文化財保護室長説明）

市長
　ありがとうございました。
　文化財について、昔は大切に取っておいていましたけれども、今はそれを活用するということに主眼をおいて様々なことを実際にやっていただいております。
　市内に旧ＴＤＫの跡地がありますけれども、そこを倉庫として使っていて様々なものを運んでおりましたが、今年１月１日からオーブレイという社名に変更した並木さんが、だいぶ業績が良いらしく、「あの周辺も含めて新しい工場を展開したい」ということでした。サファイアや人工ダイヤモンドで基盤を作っており、可能性がこれからすごくあるということです。新しい工場も作りたいということですが、まず手始めに旧ＴＤＫを工場として使いたいということでお譲りしたところです。
　そこで、旧三梨小学校を文化財の資料収蔵庫として、保存・管理し、一つ一つ研究して、どんな価値があるのかというところをしっかりと見定める。そこから、駅前に建設予定の複合施設に展示するスペースを作って、「これについてはこういう貴重なものですよ」というものを、月替わりになるかは未定ですが、市民の皆さんに見てもらう取組もやっていきたいと考えています。
　この点につきましても、皆様からお願いいたします。

簗瀬委員

この前、古文書解読の勉強会に参加しました。秋田市から外部講師を招いて行われたのですが、秋田市の外部講師以上に、湯沢市の学芸員の方の勉強の頑張り、レベルの高さにびっくりしました。これは誇れるものだと思います。外から呼ばなくても湯沢市だけでも大丈夫だと自信を持ちました。

よほど前に、既に定年になった県の文化財関係に長く携わった方から聞いた話です。「院内銀山が世界遺産候補に推薦された」という話が県庁にきたようです。ただ、当時は世界遺産の認識がありませんでした。それで、そのまま流れてしまった。じゃあ、院内銀山がなぜ世界遺産の推薦を受けられるのか。実は、日本の鉱山の中で一番資料が残っていました。秋田の侍達、佐竹家の家来が院内銀山の記録を残していました。それが国立資料館に今もあり、大学の先生や研究者たちが今も活用しています。そういう資料があったから、そういうチャンスも巡ってきたんです。佐竹南家の日記もここだけで大事にお蔵に入れておくのではなくて、ぜひアーカイブスでもいいですが、全国の研究機関、あるいは世界の研究機関の方々に見ていただけると、そこから新しい展開が広がると思います。私は、湯沢市だけに置かないでと、この前も教育委員会で言わせてもらいました。そういうことで、旧三梨小にある物も入れて守るのではなくて、全国の人たちに「湯沢市にはこういうものがあるよ」ということでどんどん公開してほしいです。ビックリされると思います。

今度の朝ドラは、植物学者の牧野富太郎先生のお話です。牧野富太郎の最愛の弟子が湯沢の南家の殿様です。殿様の記録が残っていて、牧野さんの伝記もできています。朝ドラを通して全国から注目される機会の一つになるのではないかなと。こちらの殿様まで出てもらえば。こういう時に南家に関心を持ってくださる方が出てくるのではないかなと思います。

だから、湯沢の文化遺産は、是非公開して全国の皆さんに知ってもらいたいと思っています。

後藤委員

文化財保存活用地域計画が、確か令和３年 12 月に文科省に認定されて、その計画に沿って進められてきていると思います。昨年の夏に、七夕まつりの時にプロジェクションマッピングをやっていただいて、非常に多くの方に見ていただいて好評でしたし、秋には、簗瀬委員がおっしゃったように、御日記、古文書入門体験講座などを開催して、広く市民へのアプローチをしてきました。御日記に関心を持っていただく動機づけになったものと思いますので、この講座で体験された方々が、古文書解読に手を挙げてくだされば、少しずつ人材育成になっていくんじゃないかなという淡い夢を抱いているところです。

久米委員

湯沢市の文化財という本を以前に頂戴いたしまして、大変立派な本で、デジタル面でも湯沢市のホームページから有形・無形を選んで見られる、大変よくまとめられていると思います。

文化財の保存、活用、継承ですけれども、ああいうデータを継承していくのは子どもたちですので、何か学習に関連付けてああいった文化財資料が使えないのかなと思っています。技術的なことは何も分からないですが、さっき市長がおっしゃったＩＣＴやＤＸというものは、こういった日本の歴史や湯沢の歴史などを関連付けてやっていくことなのかなと思っていました。いずれ学習に湯沢市の文化財が活用できればいいなと思っています。

佐藤委員

文化財の保護、活用、継承ということで、まず旧ＴＤＫの工場から旧三梨小学校に文化財を移すという作業に入るかと思いますが、まずその文化財を壊さないで丁寧に運んでいただきたいと思います。

あと、これから駅前の開発をされ、そこに展示スペースを作って文化財を不定期でも展示していただく。やはりあそこは、地域の皆さんや学生さんが集まるところですし、観光で訪れる方もいると思うので、そういった方々にたくさん見ていただいて、地域活性化の一つに役立っていただけたらなと思いました。

先ほど後藤委員もおっしゃっていましたけれども、昨年の七夕絵どうろうまつりの際、郡会議事堂でのプロジェクションマッピングがすごく素晴らしくて、若い人たちの目にも届くような感じでした。由来などの裏づけとかもしてもらいながら、観光と結びつけていけるような仕組みをこれから作って、教育分野ですけれども、観光分野とも連携してやっていただきながら、地域を盛り上げるような仕組みができたらいいなと思っています。

教育長

佐竹南家の御日記の関係ですけれども、今年１月にジオスタゆざわで「冬の子どもゆざわ学」を行いました。その中で、縄文時代の体験でコースター作りを行いましたが、もう一つとして、佐竹南家御日記のくずし字の解説を行いました。参加した 11 名の子どもたちに教材を渡し、うちの文化財保護室の職員が講師となって解説する時間を設けました。反省として、できれば中学生あたりまで広げたいなという意見もありました。

今後、広めていくためには、やはり、中学校あるいは小学校の高学年になるかもしれませんが、学校の授業のどこかの教科の中で取り上げて行く方法もあるのかなという事を感じています。活動や取組範囲が限定されてしまっているので、何か良い方法がないかなということを思いました。「冬の子どもゆざわ学」も一つの場ですけれども、できればもっと中学生まで参加できるようにしたい

です。小学生が多いので、イングリッシュデーも兼ねているので、何か方法がありそうだなと思いました。

市長
　湯沢の文化財について、私たちは知らないことの方が多いですけれども、やはり子どもたちが触れる機会を持つということは大切かなと思いました。
　院内銀山については、鹿角市の尾去沢は観光化する等様々やっていますけれども、院内銀山は本当に何も手をつけていなくて、手をつけていないことが価値の高まりにつながってくるのかなとも思っています。何かのきっかけというのはチャンスだと思うので、そういう部分を捉えてしっかりとやっていきたいと思いました。
　あとは、旧ＴＤＫの跡地に置いている物を三梨小学校にただ移すだけでなくて、そこでしっかりと収集して管理できる施設にしようということで 3,000 万円程を当初予算で措置させていただいております。今後、議会で審議していただきますが、少しはお金をかけて文化財をしっかりと取捨選択して、いい物はどんどん外に出していきたいなという思いでおります。

出席者意見交換

市長
　今日、予定した５つのテーマやそれ以外でも構いませんので、委員の皆様からもう一度、様々お話をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

簗瀬委員
　財源が一番元になると思います。関係機関と足並みを揃えていただきますよう、どうかよろしくお願いします。

後藤委員
　先日、さきがけ新聞に紹介されていましたけれども、雄勝中学校の生徒が院内銀山踊りと横堀音頭の振り付け説明カードを作成して、地域に伝わる踊りの保存・継承に素晴らしい取組をされていました。作成したカードは、地域の踊り手さんに合っているかどうかを子どもたち自身がきちんと確認して作成したということでいい取組であり、こういう小さな取組が保存・継承につながっていくのかなと思ったところです。
　できれば、子どもたちには、市内巡りの観光ボランティアガイドにたくさん手を挙げていただいて、ボランティアガイドと一緒に活動してもらえたらいいなという夢を持っています。

久米委員
　次の春から新型コロナも５類に引き下げられるということで、マスクが要らなくなる等、また色々な変化があると思います。国が「要らないよ」ということになれば、県や市もそれに従うことでしょうが、学校や各家庭では、３年あったコロナ禍での生活をパッと切り替えられないと思います。いろいろまた考えながらやっていくしかないと思います。 私も職業柄、未だコロナで亡くなる人の話も聞きますので、果たして本当に手放しで「元に戻った」と言って喜んでいいものかわかりませんが、慎重に進めていただければと思います。

佐藤委員
　学校に子どもを通わせている身として、コロナ禍になってからの数年間、本当に先生たちもいろんな工夫をして、絶対学びを辞めないという取組で指導してくださったのは本当に有難いなと感じています。逆に、先生たちは、それでストレスを抱えているのではないかなと思う部分もあって、その辺のケアとして、アンケートなりをとりながら改善していただけたらと思うところもあります。
　あとは、ここ数年湯沢市としては「ふるさと教育」というものにすごく力を入れているように思いますけれども、小さい頃からのそういった教育を今後も続けていただいて、ふるさとに愛着を持つように、みんなで育てていけたらいいなと思います。

教育長
　保存・継承、あるいは雄勝中学校の踊りと音頭というものを活かしたボランティアガイドについては、小学生のガイドは湯沢東小学校の児童が検定に合格していますが、中学生のガイドは、他市町村では結構出ています。
　コロナ対応は、冬休み明けに各学校長宛で通知を出していますけれども、やはりその場に応じた基本的な対策をしっかりしなければなりません。
　それから私が少し悩んでいることは、部活動関係もそうですけれども、今、教職員の働き方改革が前面に出てきています。教職員の働き方改革と地域との連携・協働の面で、今までの閉ざされた学校から地域と共に在る学校として開かれた学校にしようということで、コミュニティスクールや地域学校協働活動を一緒にやって、学校の子どもたちのための活動に、保護者やＰＴＡあるいは地域の方に何とかお願いしてきました。
　ところが、働き方改革が全面に出すぎてしまって、先生も忙しいから「いや、それはできない」となってしまうと、これまでは、いろんな面で地域ボランティアの方も協力してきたところが、全てシャットアウトしてしまうと、何ための地域と共にある学校、あるいは、コミュニティスクールなのかということになり、ちょっとそこは危ないと感じています。
　「働き方改革だから地域には協力できない、学校で精一杯だ」となってしまう

と、地域からの協力も得られなくなる。誰も頼りにしなくなる。そういう学校経営にならないように指導していきたいと思っています。

市長
　まず、ご意見いただいた「ふるさと教育」について、雄勝中学校の例もありますし、あとは、ジオパークや観光等でガイドとして様々な活躍をしていただくことは、湯沢をよく知ってもらうことに結び付くと思いますので、そういう部分に気軽にチャレンジ出来るような仕組みづくりもしていかなければならないと改めて思いました。
　それから、コロナ禍を３年経験しまして、子どもたちにとっては、中学生だともう卒業してしまっているぐらいの期間ですので、長い３年だったものと思います。
　今後は、マスクの問題、学校の給食を食べるときはどうする、ワクチン接種はこれからどう予防接種していくのか等、まだはっきり見えないところがたくさんありますけれども、現場の声をしっかりお聞きしながら、行政でしっかりと前に進めていかなければならないと改めて思いました。
　また、行政としてお金かけて様々な事業を計画しております。今回は、来年度実施すること等の説明がありました。タイミング的には、当初予算を組んでこれから議会にお示しする作業している段階ですので、今日お話しいただいて、それをすぐに予算化して反映するというのは難しいかなという思いもありますので、１年に１回でなくても、例えば夜の部でもいいですので、もっとこういう機会を持たせていただいて、今後の様々な施策に反映させていきたいと改めて思った次第です。
　今日は、本当に様々なご意見を頂戴いただきありがとうございます。
　それでは進行を事務局に戻しますので、よろしくお願いいたします。

＜その他＞
総務課長
　それでは次に、次第５「その他」ですが、皆様から何かありますでしょうか。

　※意見なし

総務課長
　本会議は、公開を基本としておりますので、議事録を作成し、市ホームページで公開することといたします。

＜閉会＞
総務課長
　それでは、以上で令和４年度第１回湯沢市総合教育会議を閉会いたします。慎重な御協議をいただきありがとうございました。